


 労協連だより

田嶋 康利

労協連では、年末から年始にかけて全国15のブロックで開催されたよい仕事集会の総集約として、来る2月27、28日に「市民の手、市民の主体的力による新しい地域、新しい社会づくりは可能か～協同労働・社会連帯による地域からの新しい生活・文化運動の創造へ」をテーマに、全国よい仕事研究交流集会2016を開催する。

初日全体会では、当事者主体の仕事おこし、地域おこしをテーマにしたパネルディスカッションや記念講演、また2日目分散会では、全国から推薦された80にわたる事業所・現場のよい仕事実践レポートを基に、研究者や実践家に参加いただき、その取り組みの価値を参加者全体で共有していく。

「当事者主体」「地域づくり」「仕事おこし」「職場づくり」をテーマに、取り組まれた各地の実践は新しい協同労働の可能性を示してくれる。児童館の仲間たちが深く地域に入り込み、学習支援から始まった活動が、子どもたちの主体的な取り組みとして始まったフードバンク活動(長野県松本)、大学や地域の団体と連携して始まった子ども食堂(北海道旭川)など、子どもの貧困をテーマにした活動の広がり。高齢者デイ、放課後等デイ、障害のある人の就労支援、訪問介護、自伐型林業、農カフェ、生活困窮者自立支援など地域の様々なニーズに応える仕事おこしを展開した事業所が地域の達人たちと出会い、社会連帯活動として「炭焼きワーカーズ」への挑戦を開始(宮城県

登米)、老人福祉施設の管理運営を担ってきた事業所が放課後等デイの立ち上げに続き、「地域の困った時はお互い様」を合い言葉に生活支援グループを立ち上げ、地域住民の力を地域の課題解決に活かす仕組みづくりを始め、まち・ひと・しごと創生事業委託の可能性を広げる(北海道恵庭)など、地域の人びとが主体となる活動の広がり。清掃現場を母体に、訪問介護事業から放課後等デイ、障害のある人の就労支援、第二放課後デイを立ち上げ、生活保護受給者の自立就労支援事業を契機に元ホームレスの人が仲間に加わり、新しい仕事おこしに挑戦を開始(沖縄県那覇)、また地域若者サポートステーションから見えてきた課題を基に社会的困難にある人を対象にした職業訓練講座の開講から、そこでの出会いを基礎に自伐型林業グループを立ち上げ、地方創生の「小さな拠点」を活用した生活困窮者、社会的孤立者を対象にした就労体験のための社会的居場所事業を開始(兵庫県豊岡、但馬地域)するなど、当事者主体の仕事おこしの広がり。これらの実践に代表されるような、当事者が主体となつての様々な領域での協同労働によるよい仕事の取り組みが全国各地で生まれている。

「よい仕事」は、私たち労協連の30数年の歴史においても、その取り組む意義は不変的なものであり、私たちの労協の原則の第一に位置づけられてきた。「1. 仕事をおこし、よい仕事を発展させます。(1)生

活と地域の必要と困難、課題を見出し、人と地域に役立つ仕事をおこします。(2)働く人の成長と人びとの豊かな関係性を育む、よい仕事を進めます。(3)仕事と仲間を増やし、働く人の生活の豊かさと幸せの実現をめざします。」(新原則の第一原則)。それは、働く者の連帯性を高め、労働に価値を与え、労働を全面的に生かすことによってこそ「よい仕事」ができ、より良い

生活と人生の豊かさをつくり出すことができると考えてきたからである。人間は社会的存在であり、その実感は「仕事」を通じた社会と人間の関係性の中で得られるものである。社会が分裂的状况にあり、歴史的な危機が深まっていると言われる時代にあつて、人間の「生きがい」と「協同労働」、「よい仕事」の関係は、私たちにとって今後とも実践的に深めていく根源的テーマである。